

## 2020 年度事業 22 年度末報告書（資金分配団体）

- 提出日 : 2023年4月30日
- 事業名 : 食の物流ネットワーク整備プロジェクト
- 資金分配団体 : 一般社団法人全国食支援活動協力会

### ① 実績値

#### 【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
0101.ロジ拠点(共同事業体あるいはコンソーシアム)が解決すべき課題を共有できている	①話し合いのプラットフォームに参画する機関・団体数 ②協議体による委員会開催数	①行政・企業・NPO等ロジハブ推進に係る6団体・機関程度が参画している ②年3回以上開催 ※各実行団体により計画通り開催し、課題解決の話し合いができている状態	2024年3月	①すべての地域で話し合いのテーブルに企業が参画しているほか、行政・企業・NPO等の関係団体が参画。今年度は各地域で予算確保や企業支援獲得等、不足しているリソースに応じて対象層を設定し、学習会を開催している。 ② 北海道1回、長野2回、福岡1回、山口2回、鳥取1回  ①すべての地域で話し合いのテーブルに企業が参画しているほか、行政・企業・NPO等の関係団体が参画。また各地域の課題に応じて食フェスタの企画内容を検討、不足しているリソース	2

				と新しく繋がることを企図した内容で開催した。北海道、鳥取、山口では支援企業獲得に向けた学習会も開催した。 ②北海道3回、長野2回、鳥取2回、山口4回
0102.ロジ拠点(共同事業体あるいはコンソーシアム)が協働して事業を振り返り、改善させている	①ロジシステム構築に参画する委員の関わり方 ②自治体・異業種機関の協力関係の変化	①食フェスタなど具体的な活動の実務に関与している ②冷蔵冷凍設備の整備や維持費等に対し、助成財団からの助成や自治体から一部補助が受けられるといった協力事例が生まれる	2024年3月	①事業広報等を行うほか、委員会運営の事務局サポートをしたり、会場提供を行うなど地域によって参画の仕方が様々である。実行団体同士の連携として、フードバンク山口の学習会に鳥取市地域食堂ネットワークが事例発表する等のコラボレーションが生まれている。 ②24時間テレビチャリティー委員会との連携により、ロジハブ推進のための備品助成を受けることができたことにより、5団体にて冷蔵冷凍庫や貯蔵庫等を整備することができた。 ①地域によって参画の仕方が様々であるが、いずれの地域でも広報協力、催事への参加・運営支援が見られた。実行団体同士の連携として、フードバンク山口の催事に全実行団体がパネル展示を行う等のコラボレーションが生まれている。 ②鳥取では冷凍冷蔵庫の設置・ハブ拠点化がはたき人権文化センター、米子市下福万隣保館、八頭町中央人権啓発センターで進むなど、関係機関の理解・費用負担(水光熱費等)が進んでい

				る。山口では岩国市社会福祉協議会との連携により岩国ステーションの開設準備が引き続き進んでいる。	
0201. ロジ拠点が必要なもの発信できるようになる	宣伝媒体や会議等を通じて情報発信した回数や対象推定人数	メディア等による報道、掲載の発信年1回以上	2024年3月	実行団体の報告書参照 実行団体の報告書参照	2
0202. 支援地域内で協力してくれる企業・行政が増える	各支援地域において支援する企業・行政機関の数と支援内容	各支援地域において本事業に対して何かしらの支援を行う企業・行政10社・機関	2024年3月	北海道：30企業・北海道庁、北海道社会福祉協議会ほか 長野：食品寄贈22社、資金寄付3社、自動販売機設置協力35社等、12行政 山口：食品提供協力8企業、備品整備協力1企業、配送支援協力1社 鳥取：39企業・団体（昨年度より継続支援） 福岡：18企業、11行政、21団体（昨年度実績） 北海道：北海道：75企業・団体 長野：食品寄贈32社、資金寄付4社、自動販売機設置協力54社等、18行政 鳥取：51企業・団体（昨年度より継続支援） 山口：食品提供協力68企業・団体、食品募集35企業・団体、配送支援協力1社、拠点開設支援1社	2

0203.資金分配団体 や他ロジ拠点同士が 連携することによ り、情報が集まる	各支援地域の団 体が他団体に対 する視察や合同 研修により情報 交換をしている か	3年間を通じて4地域程 度の他団体の活動を視察 するほか資金分配団体が 実施する研修や学習会に 年2回以上参加している	2024年3 月	2022年7月東京、9月長野にて合同研修会を開 催。7月は中間評価の目的と意義を共有し計画 作成を行った。9月は10トン車で寄贈が受けら れる長野の拠点等を実際に訪問。社会福祉施設 との連携について学ぶ機会となった。 2023年2月28日・3月1日に東京にて合同研 修会を開催。最終年度に向け事後評価の目的と 意義、進め方を協議した。2022年度に新規採択 された実行団体6団体が両日、2月28日は2019 年度の実行団体4団体があわせて参加した。複 数年度の実行団体が現地にて参加したことで、 情報交換やノウハウの共有ができた。また、2020 実行団体と2022実行団体でコラボ企画が予定 される等、今後の活動の広がりが期待される場 となった。	2
0301.支援地域内の 仕分け、配送に協力 してくれる担い手が いる	各支援地域内の 地域内物流体制	配送ボランティアや物流 支援企業などにより地域 内で寄贈物資の物流体制 ができています	2024年3 月	福岡では試験的に生協との連携により県域を跨 いで寄贈を配送し検証を行った。山口では昨年 度の食フェスタに参加していた物流企業が支援 を申し出てくれたことにより、県外からの寄贈 の一次受け・ハブ拠点までの配送が行われてい る。長野・鳥取でも昨年に引き続き社会福祉法人 との連携により一部配送機能を補完してもらっ ている。北海道は支援に関心のある物流事業者	3

				<p>の申し出があり、具体的に連携できる内容について話し合いの場が持たれた。</p> <p>いずれの地域でも協力物流事業者・社会福祉法人との連携により、物流テストを行うことができた。北海道・長野では新しく物流事業者の協力により、一次受けとそこからの配送支援の試行が行えた。山口では更なる物流事業者の獲得に向け、協力物流事業者が主導して関係事業者への説明・呼びかけが行われている。</p>	
0302.食品寄付等を受け止められるロジハブ拠点(保管拠点)が充足している	支援地域におけるハブの数とハブ拠点を通じて食材を受け取る子どもを中心とした食の居場所の数	支援地域に必要な数のハブ拠点が整備され、受け取った物がきちんと必要なところへ届けられる機能を有している。	2024年3月	<p>北海道 120 団体 (2 ロジ 5 ハブ)</p> <p>長野 140 団体 (8 ロジ 16 ハブ)</p> <p>鳥取 27 団体 (1 ロジ 4 ハブ)</p> <p>山口 336 団体 (2 ロジ 7 ハブ)</p> <p>福岡 70 団体 (1 ロジ 2 ハブ)</p> <p>北海道 130 団体 (2 ロジ 7 ハブ)</p> <p>長野 150 団体 (8 ロジ 18 ハブ)</p> <p>山口 364 団体 (2 ロジ 7 ハブ)</p> <p>鳥取 87 団体 (1 ロジ 7 ハブ)</p>	
0303.ロジハブ拠点が安全に管理されている	<p>①衛生管理講習の実施回数</p> <p>②ロジハブ拠点の衛生管理状態</p>	<p>①年1回衛生講習会を実施している</p> <p>②すべてのハブ拠点が品質保持管理の基準を満たしている。</p>	2024年3月	<p>今年度から当会が開発したWEBシステムを稼働し、ロジハブ拠点にIDを付与したことでトレーサビリティが資金分配団体・実行団体相互に確認できるようになった。衛生講習会の開催はできていないが、システム上で保管管理のルー</p>	

			<p>ルを都度チェックしないと寄贈品を受けられないようになっている。あんしん手帖を配布し衛生管理の注意喚起を行っている。</p> <p>一部地域では衛生講習会の開催ができていないが、前期に引き続き WEB システムを稼働し、トレーサビリティや保管管理のルール確認を行った。また、あんしん手帖を改訂・再刊し、実行団体に対し必要部数を配布、衛生管理の注意喚起を行っている。</p>	
--	--	--	--	--

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
0101.実行団体（ロジ拠点）が必要なものを発信できるようになる	実行団体が主催する食フェスタやセミナーの開催数	年3回程度	2024年3月	5地域にて食フェスタ・企業セミナーを計4回開催（北海道2・長野1・福岡1・鳥取1・山口3）11月に長野でフェスタ開催予定。その他地域は企画中である。 4地域にて食フェスタ・企業セミナーを計7回開催した。（北海道2・長野1・鳥取2・山口2）	2
0102.実行団体（ロジ拠点）が企業・行政とつながれるようになる	実行団体が主催する食フェスタやセミナーに参加した企業・行政の数	10社・機関	2024年3月	【北海道】6月参加者（2日間）45、32名、7月参加者28名（企業（観光流通小売り運輸ほか）、行政、NPO、中間支援セクター、活動団体等） 【福岡】8月参加者11名（協同組合、NPO、母子生活支援施設） 【鳥取】下半期に計画中 【山口】参加者6月38名、8月28名（企業（流通小売運輸ほか）、行政、NPO、中間支援セクター、活動団体、地域包括支援センター、協同組合等） 【北海道】12月参加者50名（ロジハブ説明会）、3月参加者120名（食フェスタ） （企業（観光流通小売り運輸ほか）、行政、NPO、中間支援セクター、活動団体等）	2

				<p>【長野】11月参加者100名（食フェスタ） （企業（観光流通小売り運輸ほか）、行政、NPO、中間支援セクター、活動団体等）</p> <p>【山口】6月参加者42名（ロジハブ説明会） 8月参加者34名（ロジハブ説明会） 特に山口県下の議員の参加 10月参加者47名（ハブ拠点開設説明会） 拠点開設地域の企業、行政、活動団体等 10月参加者26名（ロジハブ説明会） 2月参加者81名（食フェスタ・フードバンクフェスタ） （企業（流通小売運輸ほか）、行政、NPO、中間支援セクター、活動団体、地域包括支援センター、協同組合等）</p> <p>【鳥取】2月参加者16名（鳥取県中部勉強会）、3月参加者100名（食フェスタ） （企業（観光流通小売り運輸ほか）、協同組合、行政、社会福祉法人、更生保護法人、NPO法人、鳥取市社会福祉協議会、高齢者サロン主催者、議員、活動団体等）</p>	
0103.実行団体（ロジ拠点）の仕組みが他地域のネットワークにつながる（横展開	圏域・広域のネットワークがあるか	圏域・広域のネットワークが生まれている。初期	2024年3月	11月中国圏域におけるロジハブ説明会の開催に向けて調整を行っている。また、フードバンク山口での活動強化促進のための学習会や議員への予算要望依頼の際に鳥取市地域食堂ネットワークに他県の好事例を紹介いただくなど、広域的な連携が	

<p>していく)</p>		<p>状態よりも広がっている、またはコミットメントが増えている。</p>		<p>生まれている。長野の取組み関しても 10 月に他事業で開催する食でつながるフェスタ in 群馬にて取り上げられ、県を超えた連携のきっかけを作っている。鳥取の地域食堂の事例は、全国的に類を見ない町村連携と横断的な食支援に伴う多世代に対するソーシャルワーク機能を有していることから、食支援の推進に向けた好事例（行政的支援手法）として、他地域に向けて積極的に伝播しているところである。山口でのセミナーでも事例として紹介いただいた。</p> <p>11 月中国圏域、12 月四国圏域、3 月青森にてロジハブ説明会の開催を行った。中国圏域には鳥取・山口、四国圏域には山口、青森には鳥取にご登壇いただき、多機関連携が行われている先進的な事例として評価いただいた。長野の取組みに関しても 3 月に他事業で開催する「食を通じた地域の見守り、子どもを真ん中につなごう全国集会」にて取り上げられ、中間支援組織として活動団体に対し食とあわせて福祉的なアプローチを行うノウハウを提供している事例として紹介された。また、広域での物流や保管の課題を解決すべく有志の物流事業者を主として構成されている「物流支援プロジェクト」に実行団体にも参加いただき、直接必要とする支援を呼び掛けていただく等、広域の連携に向けたネットワークの素地が生まれている。</p>	
--------------	--	--------------------------------------	--	---	--

<p>0201.企業がこの仕組み（ロジ・ハブシステム）の必要性や価値を理解している</p>	<p>定期的に食品等物資の提供をしている企業の数</p>	<p>10 企業等が年に 1 回以上の定期的な支援をしている。</p>	<p>2024 年 3 月</p>	<p>16 企業・団体から寄贈を受け、内 13 企業・団体とは定期的に寄贈いただける関係性が構築されている。協賛企業 3 のほか、助成や金銭的な支援 2 社と各企業の得意をいかした連携が可能であることを示すことができた。引き続き当会の HP へロゴを掲載する等、多くのナショナルメーカーにご支援いただいていることを広報したことで、本事業の公益性が高いものであることを示し、結果実行団体の信用にも寄与することができた。また農水省、消費者庁の HP に、「各地域のネットワークによる全国への食料支援の取組」として MOWLS の活動をご紹介いただいている。</p> <p><a href="#">foodbank-13.pdf (maff.go.jp)</a></p> <p>53 企業・団体から寄贈を受け、内 15 企業・団体とは定期的に寄贈いただける関係性が構築されている。協賛企業 14 のほか、助成や金銭的な支援 5 社と各企業の得意をいかした連携が可能であることを示すことができた。また、9/29 農林水産大臣が参加した「物価高騰の中での期限食品の有効活用に関する意見交換会」での報告後、農林水産省を通して全食品事業者に対し「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」のご案内が 10 月に行われ、問い合わせ数が増えている。10/18 には「全国食支援活動協力会の取組と課題について」((一社) サステナブルフードチェーン協議会主催) に登壇したほか、食品産業センターから当会の活動を食品産業センターの催事にてご紹介いただく等、広く MOWLS の活動を知ってもらうことができた。</p>	<p>2</p>
---	------------------------------	-------------------------------------	-------------------	---	----------

0202.資金分配団体（全国拠点）が、地域のニーズと提供できる支援のマッチングを効率的に行えるようになる	ロジシステムに参画している全国都道府県の数	40地域32都道府県に広がっている。	2024年3月	42地域27都道府県 (2022年3月末) 45地域28都道府県	2
0203.企業・行政・省庁がロジハブシステムの必要性や価値を理解している	企業学習会の開催数、参加企業・行政の数	年間20社・機関が参加している	2024年3月	<p>今年度は2回企業学習会を開催。10月4日には物流支援のためのシンポジウムを主催した。シンポジウムには企業・行政・ロジハブ団体他より約50名の方々に参加。</p> <p>また、5月の食品産業センターでの学習会、9月にFOODシステムセミナーにて取り組みを発信する機会を得た。</p> <p><a href="https://mow.jp/cn1/2022-10-05.html">https://mow.jp/cn1/2022-10-05.html</a></p> <p>9月には「物価高騰の中での期限内食品の有効活用に関する意見交換会」に出席し、農水省や企業、また関連団体、メディアに対して、全国への食料支援の取組として「ミールズ・オンホイールズ ロジシステム」の紹介し、資料を提出した。農林水産大臣、関係企業、団体と共に企業に対して活動を広報した。</p> <p>(2022/9/29開催)</p> <p><a href="#">「物価高騰の中での期限内食品の有効活用に関する意見交換会」の開催について：農林水産省 (maff.go.jp)</a></p>	2

				11月中国圏域、12月四国圏域、3月静岡、青森にてロジハブ説明会を開催し、県域を越えた支援を企業・行政に対して呼び掛けた。4説明会を通して188名にご参加をいただき、それぞれの地域で具体的な支援に向け継続協議ができる企業とつながることができた。	
0301.ロジ拠点システムを活用し、システムを介して企業が物資を提供できるようになる	当社が開発するWEBシステムの導入率	実行団体の支援地域のロジハブ拠点にIDが付与され、WEBシステムを通じて寄贈品の受け入れを行うことができる	2024年3月	北海道・長野・鳥取：WEBシステムの説明会をロジハブ拠点向けに実施。ロジ・ハブ拠点の登録が完了し、ロジ・ハブ拠点でのID利用が開始している。 山口・福岡：WEBシステムの説明会を活動団体向けに実施。活動団体まで登録が完了し、利用が開始している。 また熊本県では熊本県庁が本WEBシステムを採用、WEBシステムの利用促進に向けた学習会の機会をいただく等、他県へも波及している。 いずれの地域でもロジ・ハブ拠点の登録が完了、利用を開始している。鳥取では新規拠点向けに追加でWEBシステムの説明を行った。また茨城県や岩手県より、本WEBシステムの採用を検討するための会議の場が設定され、検討いただいている。 北海道・長野・鳥取では引き続き活動団体の利用が課題になっており、他事業で作成した説明動画も活用し、普及に努めたい。	2
0302.ロジ拠点の支援地域に支援を受け止められる体制（冷	①社会福祉施設等を活用してロジハブの拠点整備を行	①②1件以上実績があり、事業終了	2024年3月	①鳥取市内では行政施設内に冷蔵冷凍庫を整備した他、長野県内でも社会福祉法人がハブ拠点を担っている。（前回報告時と同内容）山口ではステーションの新規開設にあたって社協との	1

蔵冷凍庫等) ができる	っている実績 ②休眠預金事業外で当会がマッチングしてインフラ整備を行った実績	後も機能している状態		<p>連携が進んでいる。岩国市社会福祉協議会および岩国市の協力により、フードバンク山口の活動の空白地域であった岩国市で活動を拡大するため、いわくにステーション設置に向けての企業・団体向けの説明会を開催した。</p> <p>②24 時間テレビチャリティー委員会との連携によりロジハブ拠点の環境整備に協力してもらうことができた。</p> <p><a href="https://mow.jp/cn1/2022-03-09.html">https://mow.jp/cn1/2022-03-09.html</a></p> <p>①鳥取・長野では変わらず社会福祉法人の協力により拠点の運営が行われている。鳥取では新規で3か所の拠点の開設が社会福祉法人の協力により行われた。</p> <p>②2023 年度も 24 時間テレビチャリティー委員会との連携によりロジハブ拠点の環境整備が取り組めることとなった。実際の物品助成は6月以降に行われる予定。</p> <p>また、11月に開催された鳥取県、鳥取市、鳥取県隣保館連絡協議会主愛の隣保事業全国研究交流大会に登壇し、“食でつながる居場所”を推進するための拠点整備として「ミールズ・オンホールズロジシステム」の取組みを紹介し、全国の隣保事業関係者に拠点活用等に対する協力を呼び掛けることができた。</p>	
-------------	---	------------	--	--	--

\* 進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
6. 実行団体の進捗に関する報告
実行団体のうちチャイルドケアセンターより事業実施辞退の申し出があり、JANPIA PO に報告・協議をして契約解除の手続きを行った。 今後は4 実行団体+資金分配団体で事業目標達成に向けて活動に取り組んでいく。 各実行団体によって事業の進捗度合いに差が出始めている。人・モノ・金のリソースは少しずつ増えているが「物流」「倉庫」における支援開拓が計画より遅れている状況がある。非資金的支援として取り組む全国域での物流支援プロジェクトと連動させながら地域資源の掘り起こし・マッチングを行っていく所存である。 契約解除の手続きを行ったチャイルドケアセンターに対し監査を行った。物価高騰など依然として食支援のニーズは高く、いずれの地域でも更なる保管場所・配送手段の確保が課題となっている。最終年度も引き続き非資金的支援として取り組む全国域での物流支援プロジェクトや企業・行政向け説明会などを通して地域資源の掘り起こし・マッチングを行っていく所存である。

③ 広報 (※任意)

1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

東京都福祉保健局少子社会対策部家庭支援課発行『子供食堂スタートブック』にて『こども食堂あんしん手帖』のリンクが紹介された。また、食品産業センターよりご紹介いただき、『明日の食品産業 2022年12月号』の企画「食品団体の話題」に当会 専務理事・平野の「寄贈食品を全国にシェアする「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム (MOWLS)」について」が掲載された。

2.広報制作物等

3.報告書等

④規程類の整備に関する報告

1. 規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。

全て公開した 一部未公開 未公開

→ 「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：

2. 変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。

はい いいえ

→ 「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。

はい いいえ

→ 「いいえ」を選択した場合の理由：

2. 内部通報制度は整備されていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「はい」の場合の設置方法（複数選択可）： <input type="checkbox"/> 内部に窓口を設置 <input type="checkbox"/> 外部に窓口を設置 <input checked="" type="checkbox"/> JANPIA の窓口を利用
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：
5. コンプライアンス委員会は定期的を開催されていますか。
<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：コンプライアンス上の問題が発生した場合に、検討会議にて開催をすることとなっており、該当する問題は発生しなかったため。
6. 報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査を実施 <input type="checkbox"/> 外部監査を実施 <input type="checkbox"/> 実施する予定がない → 「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度）